

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 国連開発計画（UNDP） 駐日代表 御名前 近藤 哲生 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

（是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等）

- 達成期限まで残り5年となる2025年時点においては、SDGs達成を現実のものとするべく、推進策をさらに加速しなければならない。万博は、2025年時点での進捗状況を認識し、達成に向けて一人一人が取り組むことを推奨するような内容であることを期待。
- 特に喫緊の課題である気候変動を食い止める持続可能な社会像やテクノロジーの提示。
- SDGsの精神に鑑み、多様性を尊重する内容となっていること。特に、すべての国や文化の人々、女性、すべての性的指向・性自認の人々、子どもや若者含めすべての世代など、多様な人々ひとりひとりの力を引き出すような未来社会の提示。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

（例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等）

- SDGsの各目標の中でも特に進捗が遅れている分野での解決策やその相互関連性。
- SDGsの次の世界の共通目標に関するもの。
- 実現は困難で独創的なアイデアが必要だが、ひとたび実現すれば大きなインパクトをもたらす大きな理想ともいえるべき「ムーンショット」目標やそれを使った未来の社会像。SDGs達成には、現場からできる改善策を積み上げるフォアキャスト思考ではなく、未来のあるべき姿から逆算して現在すべきことを考えるバックキャスト思考が重要とされている。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

- 「誰も取り残さない」精神に鑑み、来場が困難な人でも万博を体験できるような仕組み（VRやアバターを活用した参加方法など）。

4. そのほか、御自由に御意見を申し上げます。

- 万博具体化検討会委員の構成が圧倒的に中高年の男性に偏っているため、女性や若者などもっと幅広い層を入れることを期待したい。未来像を描くには、現在、役職に就いている人から選ぶという発想から脱却し、既存の枠組みでは存在感の薄い層の声を積極的に聞く必要がある。その意味では、経産省内部でも万博に向けて若手のワーキンググループを作るのも一案かもしれない。
- 万博に関する会議はなるべくペーパーレスとし、運営期間中から環境負荷を下げられないものか。タブレット端末の使用や事前のメール配信などで、大幅に紙の廃棄を削減できるように思う。

以上